

国際共創学部カリキュラムポリシー＜2026年度以降入学者＞

	大学共通	国際共創学部 国際共創学科
CP	成蹊大学は、「学位授与の方針」を踏まえ、次のような方針で教育課程を編成・実施します。	国際共創学部国際共創学科は、「学位授与の方針」を踏まえ、次のような方針で教育課程を編成・実施する。
CP1	(CP1) (各学科、各専攻の)専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。	(CP1)各専攻の専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。 (CP1-1)国際共創学部共通の基礎学力が修得できるよう、分野横断型の科目区分「基盤科目」に必修科目を低学年時から配置する。さらに、年次進行に合わせて、基礎学力を補強し、興味を広げて実践に活かすための多様な選択科目として、「共通文理」、「人文学系」及び「自然科学系」科目を配置する。 (CP1-2)英語による高いコミュニケーション能力や専門知識を修得するため、英語(言語)に関連する科目について、所定の単位を修得することを卒業要件として設定する。 (CP1-3)個々の学生の興味や、目指す将来の目的に柔軟に対応した学修計画が可能になるよう「グローバル科目」及び「発展科目」の科目区分を設定し、高度な専門知識の修得を目指す。「発展科目」は、さらに「文化」、「地理・地域」、「環境」の科目区分から成り、分野横断的に履修することにより、幅広くかつ専門的な知識の修得を可能とする。 (CP1-4)地球規模の諸課題、及び地域社会が抱える諸課題の理解・解決に向けて、理論と実践の両面から学ぶため、「フィールド・実践科目」の科目区分を設定する。
CP2	(CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。	(CP2)幅広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目区分「全学共通科目」を設定する。
CP3	(CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。	(CP3)視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。 (CP3-1)所定の必修単位等に加え、全学共通科目及び専門科目の選択科目から20単位を修得する。関心に応じて学部内の日本語教員養成コースのほか、全学共通の副専攻、他学部・他大学の科目の履修ができる仕組みを設ける。
CP4	(CP4) 思考力、表現力、課題解決力を集中的に錬成するために、(各学科の教育課程の適切な年次に)少人数の演習科目を置き、さらに卒業論文(またはこれに代わるもの)の作成を必修とする。	(CP4)思考力、表現力、課題解決力を集中的に錬成するため、適切な年次に少人数の「ゼミナール科目」等を置き、さらに卒業論文又はこれに代わる成果物の提出を必須とする。 (CP4-1)自分の意見や考えを、外に向けて的確かつ明瞭に発信できる豊かな表現力を身につけるため、1年次から4年次まで「ゼミナール科目」を配置し、このうち1年次の「アカデミック・スキルズⅠ・Ⅱ」、2年次の「英語文献講読」、3年次の「演習Ⅰ・Ⅱ」及び4年次の「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を必修とする。 (CP4-2)課題解決力、及び実践力を錬成するために「フィールド・実践科目」の科目区分を設ける。 (CP4-3)「卒業研究Ⅱ」においては卒業論文又はこれに代わる成果物の提出を必須とする。
CP5	(CP5) 自発性、積極性の達成のため、留学、インターンシップ等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。	(CP5)自発性、積極性を育む科目として、「海外フィールドスタディ」、「国内フィールドスタディ」、「共創プロジェクト」等を配置する。また、自発性、積極性の向上のため、留学、インターンシップ等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を配置する。